

V 臨時的調査研究 (2) 県産材を活用した新型コロナウイルス対策用 パーティションの実用化試験

(実施期間：令和2年度 予算区分：県単 担当：川上敬介)

1 目的

新型コロナウイルス（以下、COVID-19）が世界中で猛威を振るっている。日本でも連日感染者が発生し、「密閉」「密集」「密接」の可能性が高くなる飲食店は、営業時間短縮や人数制限、臨時休業等、通常営業ができない状況に陥っている。事業所では、こまめな消毒をはじめ、カウンターの内と外を遮るビニールカーテンや、隣同士を仕切るプラスチック製の板の設置等、飛沫感染防止のための様々な対策を講じているが、2020年5月に鳥取市内の飲食店を訪問した際、店主から「鳥取にある豊富な木材で仕切り板が出来ないか」との提案があった。

そこで本事業では、新型コロナウイルス感染防止対策に腐心する県内事業者を県産材で支援するため、製造が容易な県産材による仕切り板の試作・実用化に取り組んだ。

2 実施概要

(1) 間仕切りの試作 (写真1)

面材の樹種はスギ材とし、幅広の板が必要なことから、県内企業が製造している幅はぎ接着した板を用いた。板の厚さは約9mmとした。脚の樹種はスギ材とし、面材と脚の取り付けは、脚の中央に加工した溝に面材をはめ込むだけの簡便な方法とした。これにより、脚を簡単に外すことができ、面材を縦・横両方向で使うことが出来る。溝は、切削幅を任意に調整できる自在カッターを昇降盤に取り付けて加工した。



写真1 試作品の面材と脚

(2) 使用感の調査

試作した間仕切り板を店舗のカウンターに設置し、その使用感を調べた。当初、脚は2本使用することを想定していたが、実際に設置してみると、人に近い側の脚が場所をとってしまい、配膳や食事に支障を来すことがわかった。これについては、面材の端部に脚1本をカウンターの奥側に配置することで解決した。試作品を店舗で使用してもらったところ、店側からは「木の雰囲気良く店の雰囲気になじむ」、「間仕切りがあることで安心感がある」等の感想が得られた。

(3) 県内企業による商品化

この取り組みは報道で取り上げられ、これをきっかけに県内企業が試作品と同じ仕様の間仕切り板を商品化した(写真2)。この企業はこのほかに、反りを軽減するために面材を2枚積層接着した製品や、プラスチック板に因州和紙を貼った面材に智頭スギで額縁を施した製品等も考案した。商品は県内外から注文があり、COVID-19対策と県産材の利用拡大・PRに貢献している。



写真2 商品事例